

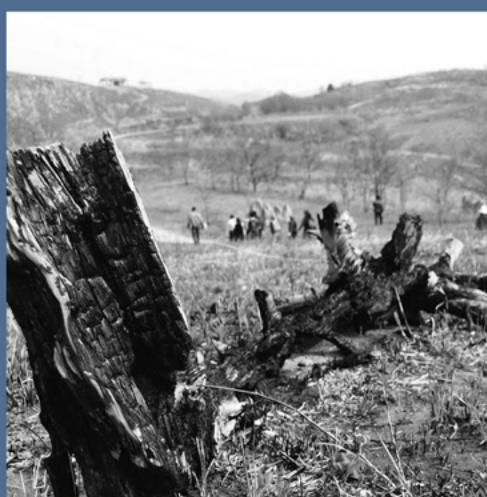


YU INFORMATION  
2011 MAY No.101  
山口大学広報誌

## 地域 × 山口大学

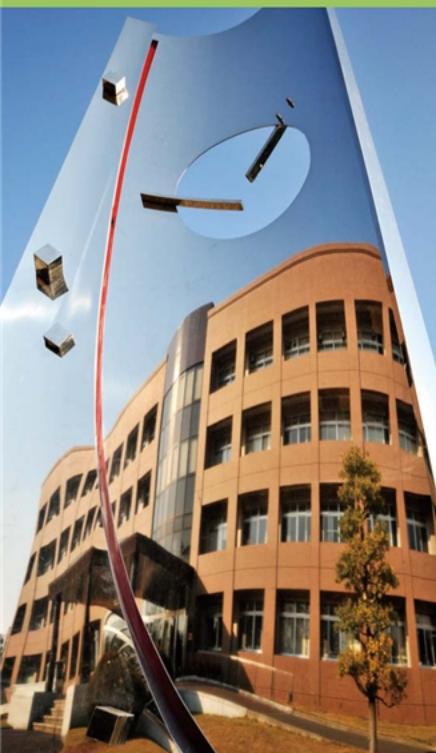
救命医療の新たな希望  
飛べ山大から! 命をつなぐドクターへリ

災害や犯罪情報の相互共有システム  
災害や犯罪から身を守る地域情報  
システムの開発





YU INFORMATION  
2011 MAY No.101



## 「志」つなぎ 伝える 二百年

山口大学は、長州藩士・上田鳳陽によって1815年に創設された私塾山口講堂を起源とし、明治・大正期の学制を経て、1949年に、地域における高等教育及び学問研究の中核たる新制大学として創設されました。きたる2015年には、山口講堂創設から創立200周年を迎えます。

山口大学は、地域に根ざした大学として、更なる充実と飛躍を期し、次なる100年をより有意義なものにするための記念事業を計画しています。



テーマ

# 地域 × 山口大学

山口県が誇る教育研究機関である山口大学だからこそできること、

あまり知られていないけど地域住民の生活を守るために

地域と連携してすでにしていること…。

学問を教え、学生を育てるだけではなく、

ハイレベルな研究をしているからこそ、

成果に付随して地域住民にフィードバックされる有益な取組みがたくさんあります。

しかし、その源が大学内というあまり外部からは見えにくい所から発信されているため、

一般の方々にはわかりやすく伝わっていないというのが現状です。

YU-INFORMATION 5月号では、そういった見えない所で支えている、

山口大学の地域住民の安全や安心、

住み心地の良い地域づくりへの貢献活動を中心に紹介します。

## CONTENTS

■特集 1 救命医療の新たな希望 飛べ山大から！命をつなぐドクターへり	01
■特集 2 災害や犯罪情報の相互共有システム 災害や犯罪から身を守る地域情報システムの開発	04
■学生取材 広報学生スタッフが体験レポート！ 地域に開かれた「知の広場」山口大学公開講座を体験！	06
■インタビュー 山口大学 学長 丸本 卓哉 山口大学が考える地域貢献とは	08
■連載企画 考える就職活動〔第1回〕 山口ではたらくということ	12
■年間企画 NEWS&TOPICS こちら YU-PRSS !	13
YU INFORMATION ワイヤーインフォメーション 山口大学広報誌 第101号	
山口大学総務部広報課 〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1 TEL 083-933-5007 FAX 083-933-5013 E-MAIL : sh011@yamaguchi-u.ac.jp URL : http://www.yamaguchi-u.ac.jp/	
編集発行／山口大学広報委員会 西田昇夫（新学長・秘書企画担当）／木下武志（副学長補佐）／坪井英彦（人文学部） 石井由理（教育学部）／成富敬（経済学部）／白石清（理学部）／坂井田功（医学部） 清水則一（工学部）／阿庭上弘行（農学部）／何映毅（大学教育機構） 近矢博志（農学公連携・イノベーション推進機構）／小河原加久治（大学情報機構） 宮守美和（エクステンションセンター長）／藤井大司郎（アドミッションセンター長） 久保元伸（大学院技術経営研究科）／梅木哲也（総務部広報課）	
企画・編集・撮影／セントラル広告 デザイン／ジーエータップ 印刷／大村印刷	



## 飛べ山大から！ 命をつなぐドクターへリ

今年1月から山口県での導入がスタートした

救急医療専用ヘリコプター「ドクターへリ」。

基地病院である宇部市の山口大学医学部附属病院に常駐し、  
消防本部からの要請を受けて山口県全域に出動しています。

東日本大震災の際には、地震発生の翌日に被災地に入り、  
負傷者や入院患者の搬送に力を発揮しました。地域住民の命を守り、  
さらには全国規模でも活躍するドクターへリの活動を中心に、  
山口大学医学部附属病院の取り組みをご紹介します。



## 山口県における ドクターへりの必要性

自然災害や交通事故、心臓発作や脳卒中などの発症によって、私たちはいつどこで命の危険にさらされるか分かりません。そうしたとき、いかに迅速かつ適切な治療を受けられるかが、生死を分け、後遺症にも大きく影響するといわれています。

山口県は、県土の7割を中山間地域が占め、有人離島の数が全国で3番目に多いなどの地理的特性があります。長距離搬送や交通渋滞などの理由により、

搬送に時間がかかり、搬送中に患者の容態が悪化する場合もありました。

また、救命救急センター<sup>※1</sup>はいずれも瀬戸内海側に配置されている現状から、全県的な救急医療体制の整備が課題となっていました。

こうした背景から、山口大学医学部附属病院は宇部市消防本部と連携して、平成15年に救急車医師同乗システム「ドクターへり」を導入。救急現場に直接医師を送り込み、できるだけ早く治療を開

始することで救命効果を高める病院前救護“プレホスピタルケア”に取り組んできました。

同じ時期に、山口県では消防防災ヘリコプター「きらら」を活用したドクターへり的運航がスタートしました。しかし、病院にヘリポートが整備されていない、救急医療専用へりではないなど、いくつかの問題がありました。

こうした課題を解決するため、山口県は救急医療に特化したドクターへりの導





入を検討。救命救急センターであること前提に、ドクターへリに搭乗する医師や看護師をそろえ、既にドクターカーにおいて行政との連携の経験もあった山口大学医学部附属病院を基地病院として、平成23年1月、山口県におけるドクターへリの運用が始まりました。

## ドクターへリとは

ドクターへリは救急医療専用のヘリコプターです。2011年3月現在、22道府県26機のドクターへリがほぼ毎日運航しています。機内には超音波診断装置、人工呼吸器、患者監視モニターなど、救急医療に必要な医療機器や薬品が搭載されており、救急医療専門の医師と看護師が搭乗します。

消防本部からの要請があると5分以内に出動。時速200キロ以上で飛行し、離島や山間部を含めた県内全域に、おむね30分以内で到着することができます。学校のグラウンドや河川敷など県内332カ所にある臨時ヘリポートに着陸後、患者を収容し、救命救急センターま

たはヘリポートを備える高度医療機関へ搬送します。

救急車に比べて普段あまり見かけることのないドクターへリですが、現場において大きな威力を発揮しています。

平成17年の厚生労働省科学研究によると、ドクターへリの救急要請から医師が治療を開始するまでにかかった時間は平均14分。平成18年度の同研究によると、ドクターへリの運用によって、死者者数は39%の減少、重症・後遺症については13%の減少効果があったと推計されています。

別名“空飛ぶ救命救急センター”と呼ばれるように、医師や看護師が同乗することによって、搬送時間の短縮のみならず、重症患者の救命率の向上や後遺症の軽減など、その役割を確実に果たしています。

診療できる県内で唯一の特定機能病院です。国立大学病院では最初に設置された高度救命救急センターがあり、年間約1000例の重症救急患者の診療にあたっています。

また、救命救急医療を担う優秀な医療スタッフの育成も重要な使命と考え、救急専門医の育成や看護師研修の受け入れ、救急隊員の研修・教育にも力を注いでいます。

これからも地域社会との緊密な連携体制を強化し、ドクターカーやドクターへリなどの現場で培った経験を生かして、救命医療体制の充実や人材育成に努め、地域医療の発展に貢献することを目指しています。

### ※1救命救急センター

重症患者を24時間体制で受け入れ、専門医師による高度な診療を行なう医療機関。

図1:ドクターへリ出動の流れ

消防本部からの要請を受けて、ドクターへリが出動。救急現場に近い臨時ヘリポートへ急行します。臨時ヘリポートに到着すると、地上上の救急隊と合流し、直ちに医師や看護師が初期治療を開始します。患者の容体や希望を考慮の上、適切な病院を決定し、搬送します。

図2:ドクターへリの出動範囲

ドクターへリの最大の特長は機動性です。へリが常駐する基地病院である宇部市の山口大学医学部附属病院から、山口県全域におむね30分以内で到達できます。

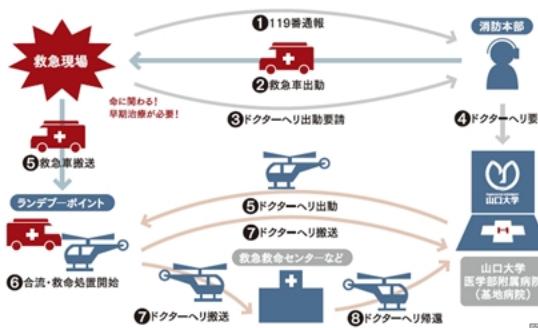


図1



図2



## 災害や犯罪から身を守る 地域情報システムの開発

一昨年に県内全域を襲った豪雨災害、  
今年3月に想定外の大規模地震と津波に襲われた東日本大震災。  
こうした未曾有の出来事を教訓に、防災施設・設備というハードの充実と、  
一般市民の防災意識の向上というソフトの両面から、  
見直さなければならない局面に立たされています。  
そこで、地域住民の防災・防犯対策に新たな光をともす最新の研究について、  
山口大学理工学研究科防災システム研究室の三浦教授にお話を伺いました。

三浦 房紀

Miura Fusanori

山口大学大学院 理工学研究科 環境共生系学域 安全環境学分野 教授



PHOTO 1

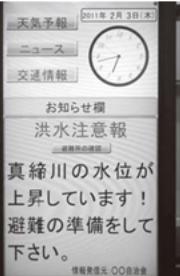


PHOTO 2



PHOTO 3

## 一人でも多くの命を救うために

地震時における構造物の挙動をコンピューターで解析するといった地震工学を専門としてきましたが、平成7年の阪神・淡路大震災を身をもって体験したこと、自分がすべきことは何なのかを自問自答するようになり、その結果「人の命を救う研究をしよう」と心に決め、研究・開発に取り組んできました。

今回の東日本大震災で、自然災害は完全に想定できるものではなく、予知にも限界があることが明白になりました。ライフラインは絶たれ、当てにしていた行政も一般市民と同様に被災し、機能しなくなりました。自分たちの身は自分たちで守らなくてはならないという、当たり前の事実もくっきりと浮かび上がりました。

山口県は地震の発生頻度が少ない地域であるとはいえ、今後も地震や津波と関係ないとは言い切れません。また、地球温暖化に伴い、各地で集中豪雨が発生し、台風が大型化するなど、これまでの想定とは違った自然災害での被害も増えています。

さらに、脅威は自然災害だけではありません。繁華街から遠く離れた住宅街などでの通り魔や誘拐事件といった凶悪犯罪も、以前より深刻化しています。

こうした身の回りに潜む危険を未然に回避することを目的として、山口大学

工学部では防災システム研究室を中心となって、地域住民自らが情報を収集・発信・共有できる「安心・安全なまちづくりを強化するためのセーフティー・インフォメーション・ネットワーク(SIN)」<sup>\*1</sup>の研究・開発を行っています。

## 地域住民のための情報システム

このシステムの概要は次の通り。まず、地域各所にカメラを設置します。撮影された画像は自動的に解析され、河川水位の上昇などによって「危険」と判断された場合には、緊急信号を発信。自治会長はその情報を、警察や消防に伝達するとともに、近隣自治会長や地域住民へ伝えます。情報は地域内の学校や集会所などに設置したデジタルサイネージ(電子看板)にも掲示されます。災害の危険性を伝えるとともに、地域住民からの不審者の通報などによる、安全で安心して生活できるまちづくりが期待できます。

また、災害発生時に、高齢者、障害者、子どもといった要援護者が取り残されないための、災害時一斉安否確認システムの開発にも取り組んでいます。

災害が発生すると災害対策本部より、対象者が持っている特別端末へと、一斉に安否確認が送信されます。それを受信した対象者は「無事」か「要救護」なのか、端末ボタンを押して災害対策本部に返答します。一定時間反応がない場合は再度安否確認を返信し、そ

れでも応答がなければ直ちに救助に向かいます。対象者1名につき、3名の担当者を指定することができ、「要救護」の場合は近隣に住む担当者もすぐさま駆けつけることが可能になります。

## 個人レベルで防災意識の向上を

現在、地域で実証実験を行いながら、システムの高度化・実用化を目指しています。情報端末を扱うことが苦手な高齢者や子どもでも、必要な情報を素早く簡単に入手でき、自ら危険を回避するための行動をとれる情報のパブリック化を目的としています。いざというときには、行政からの一方的な情報に依存することなく、住民自らが連携して情報の収集や発信を行い、地域の安心・安全を確保することが可能になります。このように人と人のネットワークをつなげることによって、地域の防災力を高めることが期待されます。

また、防災システムの充実とともに、各家庭で災害時の連絡方法や避難場所などを話し合い、防災用品をそろえるなど、日頃から防災意識を高めることも必要です。備えあれば憂いなし。ハードとソフトの両面での対策を整え、想定外の事態に備えることが重要です。

\*1 総務省の戦略的情報通信研究開発推進制度(SCOPE)の委託事業。

PHOTO 1 デジタルサイネージ

PHOTO 2 実証実験風景

PHOTO 3 安否確認システム端末

# 地域に開かれた「知の広場」 山口大学公開講座を体験！

山口大学エクステンションセンターでは、地域貢献活動の一環として、一般市民を対象にした公開講座を実施しています。地域の皆さまのご要望にお応えして、専門知識や技術の習得を目指した一般講義から、フィールドワーク形式のものまで、全18種類の講座を開講しています。今回はそのうちの一つ、「歩いて、学んで、理解する。カタログにない秋吉台」に、広報学生スタッフが参加。その魅力をご紹介します！

## 講座概要「歩いて、学んで、理解する。カタログにない秋吉台」

面積約130平方キロメートルにも及ぶ日本最大の石灰岩地、秋吉台。国の天然記念物にも指定されている秋吉台の大自然は、長年、草原を保つための山焼きを実施することによって保たれてきました。しかし、近年、周辺地域の高齢化・過疎化により、山焼きが困難になってきています。本講座は、長年、秋吉台を守ってきた方々の話を聞き、共に草原を歩くことで、秋吉台の自然を守る意義について考えることを目的としています。

□開講場所／秋吉台上ほか	□対 象／一般市民(大人)30名
□開催日時／4月16日(土)、17日(日)	□受 講 料／5,000円(傷害保険料別途)
協力:とってもゆかいな秋吉台ミーティング	後援:美祢市、秋吉台家族旅行村

1日目 10:00～17:00

午前：講義「秋吉台の草原の魅力と自然」  
担当講師：前田 時博(秋吉台エコミュージアム前館長)  
午後：実習「秋吉台上草原の散策と自然観察」  
担当講師：高橋 肇(山口大学農学部教授)、  
吉屋 康男(とってもゆかいな秋吉台ミーティング代表)、  
配川 武彦(秋吉台エコミュージアム館長)

2日目 10:00～13:00

午前：講義「秋吉台の湧水と水の流れ」  
担当講師：配川 武彦(秋吉台エコミュージアム館長)  
講義「秋吉台の草原を保全する」  
担当講師：荒木 陽子(草原ふれあいプロジェクト副代表)

## 4月16日(土):1日目

### 秋吉台の魅力を学ぶ



講義「秋吉台の草原の魅力と自然」

午前の講義では、まず大スクリーンにて「秋吉台の四季」の映像を観て、四季折々に変化する秋吉台の草原の魅力を体感してもらいます。その後、この秋吉台の草原が人の利用によっていかにして守られてきたかを講義します。戦前・戦中では旧日本陸軍の演習地として使用され、戦後はアメリカ軍の空爆演習地の候補になりました。しかし、秋吉台の自然を守ろうとする地元住民や国内外の研究者の努力のかいもあって、特別天然記念物に指定され、地下水系がラムサ-

ル条約※1にも登録されました。しかし近年、資源として草の利用が減り、周辺集落の過疎・高齢化が進むに従い、秋吉台の草原も徐々に小さくなっています。秋吉台の魅力と歴史的な流れについて知ってもらいます。



実習「秋吉台上草原の散策と自然観察」

### 秋吉台を歩く

午後からの実習では、受講者全員で秋吉台を歩きます。草原は、2月に山焼きを終えて一面真っ黒な中にネザサの新緑が芽吹いており、カルスト台地特有のドリーネが連なる馬ころびと呼ばれる景観を青く染め始めています。山歩きの道すがらさまざまな野草や花に珍しい鉱石、昔の人々が利用した湧水の跡や陸軍演習の塹壕遺跡を

※1水の自然と生物の環境を守るために国際条約。湿地や池などが登録の主な対象。

見つけることができます。また、場所によっては、かつて栄えていたドリーネ耕作が今でも続けられています。こうした自然豊かな草原を守るために、年に1回山焼きをしています。山焼きでは、周辺の森に火が入らないように、険しい斜面を草刈りして火道をつくる必要があります。高齢化が進む近隣農家にとっての苦労も知ってもらいます。



講義「秋吉台の湧水と水の流れ」

## 4月17日(日):2日目

### 秋吉台を理解する

2日目は、初日の集大成となる講義となります。まず前半は、秋吉台の水の成分を、実験装置にて分析します。結果、秋吉台の湧水で得られた水が超硬水であることが分かります。秋吉台の水系は、平面分布だけではなく、地下を立体的に流れているため、渴水時には数ヶ月も水がたまる一方、大雨の際には一気に流れ出ることもあるのです。

後半は、今後に向けた活動を紹介します。秋吉台は山焼きによって守られていますが、燃えにくい場所を中心にやぶ化が進み、周囲は森林化も進んで、草原の面積全体が縮小しています。そうした実状をふまえ、草刈りによる草原再生の成果(梅雨明けに草刈りをすると、届く光の量が増え、秋の花の数が増えます)について知ってもらいます。刈った草を堆肥にするドリーネ畑で大根を育てる活動についても紹介します。



講義「秋吉台の草原を保全する」



## 私たちが体験してきました！

講義で学んだことを、秋吉台を歩きながら検証し、実際に目で見て、肌で感じたことを、再び講義で確認するという流れが、とても分かりやすかったです。山焼きや草刈りをやめてしまえば、秋吉台はもとの雑木林へ戻ってしまいます。私たち若い世代が美しい草原の保全活動を担っていく必要性を実感しました。



教育学部3年 佐々木 裕美

この講座の一番の醍醐味は、秋吉台を歩きながら発見したことを、その場で解説してもらえることです。参加した皆さんには、先生を囲んで話しながら、野草を探したり、蛇腹を観察したり、写真を撮ったり、景色を楽しんだりと、それぞれの楽しみ方を満喫されていました。参加者同士もすぐに打ち解けることができてとても楽しかったです。



理学部3年 久保田 法彦

## 参加者感想

- 「カルストがサンゴ礁からきていて、太平洋プレートに乗って移動してきたことを講義で初めて知りました。歴史のロマンを感じます。」(山口市／男性)
- 「秋吉台の高台から周りの景色を見るのは初めてでした。湧水のシステムに感動しました。」(山口市／女性)
- 「大学の公開講座ならではの専門的な話を、分かりやすく聞くことができました。」(福岡市／男性)
- 「他の受講者と最後まで楽しく活動できました。」(山陽小野田市／男性)
- 「ストロマライトに感動しました。秋吉台にあることを知らなかったです。」(山口市／男性)
- 「この公開講座には何度か参加していますが、受講するたびに新しい発見があります。」(男性)
- 「実際に草原を歩いてみて、意外と石灰岩が多いことに驚きました。目の前で説明して下さって分かりやすかったです。」(女性)

## 2011年度公開講座（全18講座）

講座1	今日から始めるグリーンライフ講座	講座10	プロの技術で挑む小麦栽培から始める地産地消のパンづくり
講座2	歩いて、学んで、理解する。カタログにない秋吉台	講座11	日本語教育能力検定試験対策講座～基礎基本コース～
講座3	循環器疾患の新しい診断法と治療	講座12	サマーサイエンススクール
講座4	ピートルズ講座	講座13	木工入門
講座5	やまぐちサタデー・カレッジ2011(異文化交流コース)英語の歴史	講座14	女性のための健康応援講座～自分に合ったリラックス方法を見つめませんか～
講座6	日本語教師養成講座	講座15	日本語教育能力検定試験対策講座～直前対策コース～
講座7	小麦栽培から始めるパンづくり	講座16	香りを科学する
講座8	アジア地域の教育改革を探求する～中国、韓国、台湾、シンガポールの教育を探る～	講座17	俵山を歩いて暮らしの伝承を学ぶ
講座9	時間学への招待	講座18	やまぐちサタデー・カレッジ2011(日本文化コース)コミュニケーション能力養成講座

## 公開講座だけじゃない！地域に広がる「知の広場」

### □開放授業

地域のみなさまに対して学習の機会と場を提供すべく、正規授業の一部を開放しています。山口大学の授業を、学生と一緒に受講することが出来ます。

### □出前講義

大学進学を希望される高校生のみなさんに、大学の授業の雰囲気を体験してもらうため、講師が高校へ出向いて、大学の専門的な内容をわかりやすくアレンジした講義を行っています。

申込は全てインターネットで受け付けています。詳しくは山口大学エクステンションセンターのホームページをご覧下さい。<http://ext.yamaguchi-u.ac.jp/>



山口大学 学長インタビュー

## 山口大学が考える地域貢献とは

近年、地方分権や少子高齢化、地域ニーズの多様化・高度化など、地域社会が抱えるさまざまな課題解決において、「知の拠点」である大学の役割に大きな期待が寄せられています。そこで、山口大学の地域貢献活動をテーマに、丸本学長にお話を伺いました。



## 国立大学と地域のかかわり

ご存知のように平成16年に国立大学は法人化され、激しい競争の時代を迎えるました。各大学は個性や特色を打ち出し、さらに強化していくうと、さまざまな取り組みを行っています。

そうした流れの中で、国立大学法人・総合大学・地方大学として、山口大学は何をすべきなのか、我々の使命を改めて見直しました。その大きな柱の1つとして掲げたのが「地域貢献」です。

## 山口大学が進める地域貢献

例えば、今年1月下旬に山口大学医学部附属病院に配備したドクターヘリはそのうちの1つです。4月末現在で40回(現場出動10回、転院搬送30回)出動し、40人を搬送することができました。先日発生した東日本大震災の際にも出動し、孤立した病院から患者を運び出しました。救急医療は時間との戦いです。特に、山間地や離島の多い山口県において、より迅速な対応が行えるドクターヘリの運用は重要な意味を持っています。救急医療体制の充実に貢献する頗もしい存在として、今後の活躍が大いに期待されます。

さらに、安心・安全な地域づくりという観点から、防災・防犯についても力を注いでいます。宇都市にある山口大学工学部防災システム工学研究室では、災害や犯罪の危険性を検知し、デジタルサイネージ(電子看板)などで伝える地域情報システムの研究開発を進めて

おり、地域で実証実験を行いながら実用化を目指しています。

命より大切なものはありません。医療サービスの充実や研究・開発などを通じて、安心・安全な地域社会の実現に広く貢献したいと思っています。

## 地域のニーズを探るために

地域のあらゆる課題を解決するためには、まず地域のニーズを正確に把握することが必要です。本学では平成18年から、県内を7地域に分けて「地域交流会」を実施しています。これは、県内各地に大学の執行部が向いて、中小企業や商工会議所、行政の方などと定期的に意見交換を行うことで、地元に根付いた要望や意見をお聞きしようとするものです。地域の皆さんから大変好評をいただいており、現在2巡目に入っています。交流会の成果は、例えば、地元企業だけを集めた就職説明会につながっています。これによって、地元企業と学生の就職のマッチングが推進されるようになります。大変うれしく思っています。

全学レベルでは、山口県や県内企業と連携し、さまざまな分野における研究や事業を進めています。行政から要望があった場合も、専門の研究者を各委員会に派遣しています。

そのほか、県内の高等教育全体の質的向上を目的に、大学コンソーシアムやまぐち<sup>※1</sup>を形成し、合同就職説明会の開催、高大連携の促進、生涯学習にかかる事業なども推し進めています。

また、どこに相談すればいいのか分



## 山口大学 学長 丸本 卓哉

Marumoto Takuya

1967年九州大学農学部農芸化学科卒業。農学博士。  
山口大学助手、助教授、教授を経て2004年に理事・副学長、  
2006年に学長に就任。2010年、再選。  
趣味は武道(空手道7段・居合道4段)、映画鑑賞。

からないというご指摘をいただきましたので、地域の方々が大学に相談しやすいよう、それぞれの部門の窓口を明確にしました。どんなささいなことでも良いので、まずは気軽にご相談いただけたいたいと思っています。

### 地域に開かれた大学として

大学は敷居が高いと思われているようで、地域の方々になかなか気軽に足を運んでいただけておりません。そこをなんとか打破したいと、本学ではさまざまな取り組みを行っています。

特に、吉田キャンパスがある山口市平川地区では、地域の方々をキャンパスに招いて、環境整備状況の紹介をし

たり、地元の行事に本学の学生や教職員が参加したりして、日頃から交流を深めています。

キャンパス整備は順調に進んでいます。オオガハス池や桜、ホタルなど、美しい自然に彩られたキャンパスは日本一だと自負しております。キャンパス北側は「国際・社会連携ゾーン～コミュニティー広場」として、学生・教職員はもとより、本学OB・OGや地域の方々に広く開放しています。

また、地域に開かれた大学として、一般市民の方を対象に出前講義や公開講座、開放授業など、生涯学習の場を提供しています。山口大学図書館では、一般市民への貸し出しも行っており、地域における学術情報提供の拠点と

しての役割も担っています。

### これからの学生に求めること

地域貢献と言った言葉にいっても、学生の皆さんは何をすれば良いのか分からなかもしれません。まずは地域の人とかかわる姿勢を持つこと。1人で閉じこもっていては何もできません。仲間と共に勇気を持ってその一步を踏み出してほしいと願っています。

山口県には長州ファイブ<sup>\*2</sup>のように命がけで時代を動かした先人たちがいます。本学の学生にはその精神を忘れず、何事にもたくましくチャレンジし、社会で役立つ人間に育ってほしいと願っています。

山口大学の理念は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」です。勉強はもちろん、サークルやボランティア活動、地域貢献など、さまざまな活動に参加することで、心と体とスキルを磨き、自らが人生を切り拓く力を身に付けてほしいと思っています。

### 地域との共生を目指して

地域交流会など、地域の方々と本音で語り合える場をつくることで、少しづつ相互理解が深まっているように感じています。このような地道な取り組みが、地域の課題の解決、地域社会の発展につながっていくと信じて、これからもさまざまな地域活動を行っていきたいと思います。そして、「卒業後も山口で暮らしたい!」、「我が子を山口大学に入学させたい」と言っていただける方が1人

でも増えてくれるうれしいですね。

交通インフラの整備やインターネットの普及など、画期的なスピードで物事が進むようになりました。こうした背景から、地域の枠は県外、そして海外へと少しづつ広がりを見せていました。今後は、多種多様な人々とのネットワークをさらに強化することで、地域と国際社会のかかわりを見つめ、広い意味での地域貢献を目指していきたいと思います。



#### ※1大学コンソーシアムやまぐち

山口県の高等教育機関(12機関)が相互に連携・協力し、県内の高等教育全体の質的向上に資するとともに、地域社会へ貢献することを目的に形成されたもの。

#### ※2長州ファイブ(長州五傑)

1863(天保3)年、伊藤博文、井上馨、井上勝、遠藤謹助、山尾庸三が横浜港からイギリスに留学。それぞれが近代日本の行政、経済、産業、交通、通信などの分野で重要な役割を果たしました。

### ■広報学生スタッフの感想

人文学部 人文社会学科 4年 林田久恵



ドクターへりによる地域医療の強化、キャンパス内の環境整備、そして地域交流会の開催といった、山口大学が行っているさまざまな地域貢献への取り組みを知り、大変驚きました。“地域貢献=特別なこと”だと思っていた私にとって、「地域貢献をあまり重大なことと考えないで、まずは一步を踏み出して、

地域の方々と話をしなさい」という言葉が、とても印象的でした。今まででは、県外出身ということもあり、地域の方々と触れ合う機会もなかなかありませんでしたが、これからは七夕祭などの地域のお祭りにできるだけ参加し、私なりの“地域貢献”を始めてみよう思います。

人文学部 言語文化学科 4年 原内由佳



地域へのキャンパスの開放を目指した裏山の整備、ドクターへりによる地域医療の強化など、山口大学のさまざまな地域貢献活動について、学長の口から直接聞くことができたのは、とても良い経験になりました。「一般の人にとって大学は、“自分とはあまり関係のない遠い存在”だと思われている

かもしれない。だから大学の方から地域へと歩み寄っていき、距離をどんどんと縮めていかなければならない。そうすれば、地域社会の発展に貢献できる」という言葉が、特に心に残りました。これからは、できるだけ多くの地域の方々に、山口大学の地域貢献活動を伝えていきたいです。

# 山口ではたらくということ

都会で働きたい、地元に帰って就職かな、  
とにかくいろいろな場所に行ってみたい、  
大学で過ごした山口でそのまま就職しようかな…。  
卒業後どこで働くのかは、  
仕事を選ぶ上で重要な要素となります。  
「考える就職活動」第1回目は、  
山口大学を卒業して山口のテレビ局に就職。  
東京勤務を経て山口に戻られた  
山崎裕和さんにお話を伺いました。

## Q1.なぜ山口の企業に入社しようと思われたのですか？

A.実はもともと山口で働きたかったわけではなく、都会で働きたいと思っていました。テレビが大好きだったので、とにかくテレビ局に何社も受けました。でも全部落ちて、残ったのが東京の番組制作会社と山口のテレビ局でした。勤務地か、業種か悩んだ末、「やりたい仕事」を選びました。

## Q2.念願の放送局へ入社されましたか？いかがでしたか？

A.あこがれのイメージとは違いました。最初に配属された編成業務部は、地味なデスク業務で、やりたかった仕事ではありませんでした。(笑)ただ、新人の私にも責任のある仕事を任せてくれた上司のおかげで、経験を積ませてもらいました、次第にやりがいを感じるようになってきました。

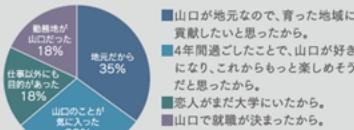
## Q3.異動で東京支社勤務が決定したときと、実際に東京で働くかれての感想をきかせていただけますか？

A.東京への思いがなくなっていたわけではありませんが、正直複雑でした。入社以来続けてきた業務を、やり通したかったからです。東京支社では3年目から営業になり、初めての外勤で人間関係が広がり、新たな楽しみも覚えました。また、山口に比べてクライアント数や扱う金額も違うので、刺激的かつ貴重な経験を得ることができたと思っています。



## 【OB・OGアンケート調査】県内ではたらく山大出身者に聞く仕事と暮らしに関する3つの質問

### Q1.なぜ、大学卒業後山口で働くことを思いましたか？



### Q2.山口で社会人生活を送るメリットは？



- 山口が地元なので、育った地域に貢献したいと思ったから。
- 恋人がまだ大学にいたから。
- 山口で就職が決まったから。
- 山口が地元なので、育った地域に貢献したいと思ったから。
- 社会人環境への適応が楽。
- 親が近くにおり、経済・生活面で助かる。土地もあるのでマイホームや農業の夢も広がる。
- 中小企業が多く、入社後のさらなる発展の余地がある。

### Q3.山口で会社を選ぶなら、何をチェックすべき？



調査対象者職種分布 ▶▶▶

公務員 28%

サービス業 21%

金融保険 10%

情報通信 7%

医療福祉 7%

製造業 7%

その他 17%



山崎 裕和 Yamasaki Hirokazu

岡山県岡山市出身。山口大学経済学部卒業。在学中は、ラグビー部に所属。1996年にyab山口朝日放送に入社、現在16年目。編成局業務推進部副部長。

## Q4.春から再び山口本社へ異動となったとのことですが、いま山口で働くことについてどのようにお考えですか？

A.東京は、国際的な大企業も集中しているので、山口では経験できないこともあります。でも今はインターネットのおかげで手に入れられる情報に違いはなくなり、どこにいてもリアルタイムで発信できるようになりました。これからは働く場所での差というのではなくていいかもしれませんね。地方だからという言い訳が通用しなくなるし、東京だからという優位性もなくなるわけですから。現状から上を目指すという意味では、これから山口で働くことにも大きな可能性を感じています。

## Q5.最後に、学生へメッセージをお願いします。

A.私はこの春から業務推進部に配属されました。会社と山口を共に盛り上げ、元気にする仕事です。もっと山口を知り、好きになり、それを自分の言葉で発信していくことを考えていました。それが一番伝わると思うからです。就活はあなたを企業にPRする場です。面接の必勝法を勉強することも大事ですが、やりたい仕事、趣味、一生懸命になれるものがあれば、それがきっとあなたの素直な言葉となり、相手に伝わるはずです。まずは、「あなた」を大切に。そして、山口で大学生活を過ごしたということを生かしてください。応援しています。



# Y U - P R S S !

"Yamaguchi University Public Relations Student Staff" 略してYU-PRSS(ユープラス)。  
「山大生のあなた(YOU)にも、そうではないあなた(YOU)にも"プラス"になる情報を届けたい」との  
想いを込めて名付けられました。現在13人のメンバーにて、山口大学の広報活動を行っています。

## NEWS&TOPICS

私たち学生スタッフが取材した、山大の最新の話題やニュースをお届けします！

01

放送大学、  
吉田キャンパスに移転

平成23年3月14日(月)、放送大学山口学習センターが、山陽小野田市の山口東京理科大学構内から山口大学吉田キャンパス内の大学会館へと移転しました。放送大学と山口大学は、平成22年11月に包括的連携協定を締結し、単位互換の推進、ICTの効果的な活用などの連携協力事項の検討を行ってきましたが、このたびの移転により、両大学の関係がより一層強化されることになります。今後は、人的交流を含む相乗効果はもちろんのこと、教育・研究の質の更なる向上が期待されています。



02

吉田寮1号棟竣工！

平成23年3月29日(火)、学内関係者および寮生代表出席のもと、吉田寮1号棟の竣工記念式典が行われました。吉田寮1号棟は、建築後40年以上が経過し、経年劣化が激しく耐震性も低いため、早期の改修整備が必要とされていました。新しくなった吉田寮1号棟は、全室個室で、各部屋には浴室、トイレ、ベッド、机、棚、空調設備を完備。各階には、学生の交流の場として談話室が設けられており、1人部屋であっても寮生同士の交流ができるよう配慮がされています。寄宿料は月額16,500円。



03

やまぐちネイチャーリングマップ  
vol.3・4・5完成！

山口大学理工学研究科の永尾隆志教授を中心、山口県内博物館・大学連携協議会が企画・制作した「やまぐちネイチャーリングマップ Vol.3 ~Vol.5」が完成しました。このマップは、山口県内の観光地情報に自然科学的・学問的な付加価値を与えるデータと大学の研究成果を反映した、全国的にみても珍しい自然系観光マップです。今回完成したのは、山口県内7エリアの内、「山口・防府」「下関・長門」「岩国・柳井」の3エリア。山口国体の開催に向けて、県内の各施設で無料配布されます。



04

桜花爛漫  
「維新伝心プロジェクト」

山口大学では、吉田キャンパス北側を整備し、学生はもとより、広く一般の方々に開放することを計画しています。その活動の一環として「桜花爛漫～維新伝心プロジェクト～」では、皆さまからの寄附金(1口50,000円)を募集しています。寄附をした人には、名前や好きな言葉を書いたプレートを桜の木に掲示できる特典が付いています。現在計61本の桜が植えられ、おかげさまで入学式の頃には美しい花を咲かせていきました。詳しくは、財務部経理課経理係TEL 083-933-5105まで。



【YU-PRSS(ユープラス)とは?】「キャンパスライフ」、「ワイルドインフォメーション」の制作に携わる山口大学広報学生スタッフです

### YU-PRSSメンバー

林田 久恵／原内 由佳／桐原 純太／国本 亮／久保田 法彦／入江 貴博／佐々木 裕美／黒江 那津子／長岡 奈緒子／前田 梨乃／吉岡 優一／河島 あかね／溝口 明音

### ■追加メンバー募集中！

主な仕事は、山口大学のホームページ内にて毎週更新されている「キャンパスライフ」ページの作成と山口大学広報誌「ワイルドインフォメーション」の製作補助です。取材・撮影・記事執筆といった、企画・編集業務に興味のある方、一緒に活動してみませんか？詳しく述べてください。

E-MAIL:campus@yamaguchi-u.ac.jp キャンパスライフURL:[http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~campus/campus\\_life%20\\_web/](http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~campus/campus_life%20_web/)

### ■感想、取材依頼などお気軽にメールしてください！

今号についての感想や、今後こういった特集はどうだろうといったアイデア、こんな人を取材して欲しいといったご要望も受け付けております。また、「私たちを取材して欲しい」といったサークルやグループも大歓迎です！たくさんのメールをお待ちしています。

「志」つなぎ 伝える  
二百年



—創基200周年—  
**山口大学**

YU INFORMATION  
2011 MAY No.101

山口大学広報誌